

**音楽を取り入れたあたたかい学級づくり**  
— 子どもたちが安心感をもって表現する学級をめざして —

教職実践研究科 教職実践専攻 教職実践基礎領域

伊吹 拓実

### 1. はじめに

私が教職大学院に入学した理由は、現場に出るのにもう少し時間が欲しいと思ったこと、現場実習で自分を見つめ磨きたいという気持ちがあったことである。大学卒業後すぐに教壇に立つ自信がなく、もっと現場に出て実践を通して学びたいと思い、愛知教育大学教職大学院に進学することを決意したのである。

大学院での学びは「理論と実践の融合」をテーマに、先進的な取り組みや授業方法について幅広く学ぶことができる授業構成に加え、多種多様な実習が設定され、実践を伴った充実した学びができた。

特に、学校サポーターや教師力向上実習で約1年半継続して安城市立安城中部小学校で実習させていただいたことで、児童の変化をとらえることができ、また教師の幅広い職務について、先生方と机を並べて学ぶことができた。まず、ご指導ご協力していただいたすべての先生方に心から感謝とお礼を申し上げたい。

### 2. 本稿の目的と方法

本稿は、「音楽を取り入れたあたたかい学級づくり—子どもたちが安心感をもって表現する学級をめざして—」という題目で教職大学院2年間の学びの成果をまとめるとともに、今後の教師人生の抱負等も述べる。特に、安城中部小学校での実践と、なごやフレンドリーナウでの体験をとりあげて報告し、私がめざすあたたかい学級づくりについてまとめる。紙面の関係上述べられない学修内容や実践は実習ポートフォリオにまとめることにする。

### 3. 題目設定の理由

新学習指導要領「総則」では「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と活用」「言語活動の充実」「主体的に学習に取り組む態度の育成」などの必要性が明記され、教師にはこうした現代の課題をふまえて授業を構想することが必要とされている。また、音楽科指導要領においても、国語科や、理科、社会科、図画工作科などの教科との関連を積極的に図り、指導の効果を高めることが求められており、授業の質的向上が期待されている。これらは、授業実践を積み重ねてきたベテラン教師のみならず、私たち新任教師にとっても、教師として児童生徒の前に立つ以上、誠心誠意取り組まなくてはならない重要な課題である。

しかし、私はこれらの実現のためには同時に「児童生徒が安心感をもって学び、安心して表現できる場所」

が当然必要であり、信頼できるあたたかい学級づくりが大切であると考えている。

私が、2年間の多種多様な実習を通して感じた事は、ありのままの自分を豊かに表現できず、困っている児童がたくさんいるということである。自分の思いや考えをうまく表現できず物にあたったり、喧嘩の仲介に頻りに教師を呼んだりする児童は少なくない。児童どうしは直接関わろうとせず、教師や大人に解決を求める。児童は表現する力がないわけではなく、集団生活の中で自分の思いを表出することへの不安があるのではないか。安心して表現できるという実感を持った感動体験が乏しいのではないか。

以上のような考えから、子どもたちが安心感をもって表現するあたたかい学級づくりについて、私の考えとその実践をまとめた。

### 4. 「あたたかい学級」とは

私の考える「あたたかい学級」とは、安心感があり、笑顔があふれ、信頼できる人間関係が形成されている学級である。

私たちが、職場や大学、外出先から帰り、我が家のドアを開けて荷物をおろす時、この時の「ほっとする」という感覚を「安心感」という言葉で置き換えるならば、あたたかい学級とは、児童が自分の所属する学級に登校してきた時、休み時間が終わり自分の学級に戻った時などに、このような目に見えないあたたかさを感じることができる学級であると考えている。

学級には自分の机や椅子、自分の持ち物があり、頑張って書いた図工の絵や、書道で書いた自分の字がある。さらに、仲間と工夫してつくった係の掲示物や当番表がある。そこに仲間がいて教師がいる。毎日一緒に生活し、机を並べて学ぶ仲間や教師と信頼できる人間関係が形成できていれば、児童にとっても教師にとっても、自分を豊かに表現できる「安心感」を感じることができるのではないか。

また、私はあたたかい学級とは、児童が豊かな声でおおらかに歌うことができる学級であると考えている。笑顔で伸び伸びと歌が歌える学級というのは児童の安心感や信頼できる人間関係が育っていると考えている。あたたかい学級の実現のためには、声がそろっているか、音程が正しいかなどの音楽的な技術のみを重視するのではなく、安心して声が出せるという学級の雰囲気や児童どうしの関わり合いに着眼したいものである。

## 5. 小学校の実践概要

### (1) 実習校と時期

安城市立安城中部小学校 3年3組 女子18名 男子18名 (計36名)
平成22年4月5日～4月30日 (教師力向上Ⅰ) 平成22年9月13日～10月8日 (教師力向上Ⅱ) 学校サポーター (週2日・約1年半)

### (2) 学校の実態

安城中部小学校は今年度102年目をむかえ、歴史のある学校であり、児童数は600名を超える大規模な学校である。また、安城市で唯一市内の安城厚生病院に院内学級をもち、校内には2学級の特別支援学級を設置している。

近年、学区には高層マンションが2棟建設され、児童数は増加した。児童の家族構成や、家庭環境は様々である。

### (3) 朝の会

本校の朝の会は約20分間である。健康観察や連絡が終わると「今月の歌」を歌う時間があり、全学級から歌声が聴こえてくる。今月の歌は音楽部会で選曲決定され、低学年、高学年ごとに設定されている。

低 1・2年(元氣よく楽しく歌う)	高 3～6年(合唱の響きを意識して歌う)
4月 校歌	4月 校歌
5月 勇気100%	5月 COSMOS
6月 怪獣のパラード	6月 怪獣のパラード
7月 おぼけなんてないさ	7月 翼をください
9月 世界中の子どもたちが	9月 レッツ サーチ フォー トモロー
10月 未来はぼくらが主人公	10月 未来はぼくらが主人公
11月 学芸会の歌	11月 学芸会の歌
12月 あわてんぼうのサンタクロース	12月 マイバラード
1月 世界にひとつだけの花	1月 マイバラード
2月 ありがとうの歌	2月 卒業生を送る会に向けて
3月 送別会に向けて	3月 卒業式に向けて

【今月の歌】

### (4) 児童の実態 (3年3組)

始業式を終え、学級編成があり一部のつながりを除いて話したことがない児童が多い。また、4月からの転校生もおり、人間関係が形成されていないに等しい。担任教師は前年度6年生を担当しており、児童との関わりは薄い。したがって多くの児童にとって教師との出会いもまた新鮮であり、緊張感をもっている。児童どうしの関わりや会話はぎこちなく、水筒や帽子が落ちていても拾わないなど、あたたかさに欠けた自己中心的な行動が目立つ。

一方、朝の会における歌唱の実態は後で手を組んで歌う、体を左右に揺らして歌うなど、まさに十人十色であった。多くの学校の場合、3年生という学年は、これまで学級担任がそれぞれの学級の音楽科授業を担当するため、重要視されてきた指導観点が異なっているという特徴をもっている。本校では3年生以上の音楽科授業は音楽専科の教師が担当するため、本学年から学年統一で歌唱時の姿勢や発声の基礎などが授業で指導されることになる。

### (5) 実践の方法と目標

朝の会の歌唱時に担任教師に代わって私が前に立ち、児童に歌唱時の注意を呼びかけるとともに、児童が音楽を介して関わる活動を行うなど、継続的に実践する。以下にその目標を示す。

これは、音楽の専門的指導を通して歌唱技術の向上のみを目的にしているのではなく、日々の朝の会の歌唱活動を通し、継続して児童と関わることで学級のあたたかさを育てることをめざしている。短期的な変化ではなく長い目で見守りながら実践を続けていきたい。

#### 朝の会の歌唱活動を通してあたたかさを育てる

- ・朝の会の「今月の歌」を歌唱する際に、歌うことを楽しみ意欲的に取り組む姿を育てる。
- ・児童どうしの関わりをもたせ、協同する喜びや感動体験を共有させる。

なお、私は担任としてではなく、実習生として学級に入っており、担任教師の指導のもとで学級のあらゆる活動や行事に参加させていただきながら、児童と触れ合い、実践をさせていただいている。担任教師の日々の熱心な指導があつて本実践が成り立っていることに深く感謝し、先に述べておく。

### (6) 実践の計画

「学級子ども地図」を描くことによって児童理解を進め、学級内における人間関係やその変化をとらえた。また、アンケートを実施することで、児童の歌唱活動に対する気持ちを知るとともに、学級で歌うことや自分を表現することへの安心感がどのように変容するかを児童の回答や記述からとらえる。

指導の時期を前期、後期、と大きく2つに分け各時期における実践計画を立てた。本校は5月に運動会を行うこと、11月に全校が学年ごとにひとつの演目を発表する学芸会があること、2月に学級対抗で行う長なわとび大会があることなどの特徴がある。

これらの学校行事は、学級として、その集団生活の重要な節目になるため、本実践でも大きな学校行事が前期、後期に分かれるように設定を行った。なお、本稿では太字の実践について報告する。

時期	3年生に関わる 主な学校行事	具体的な実践計画
前期 4～9 月	入学式 始業式 運動会 遠足	○学級子ども地図1の作成 ○音楽アンケート実施 ○歌唱時の姿勢ポスター作成
後期 10～3 月	学芸会 マラソン大会 長なわとび大会 卒業生を送る会	○音楽・社会・体育などの授業実践 ○朝の会の歌唱活動の工夫 ○音楽アンケート実施 ○学級子ども地図2の作成

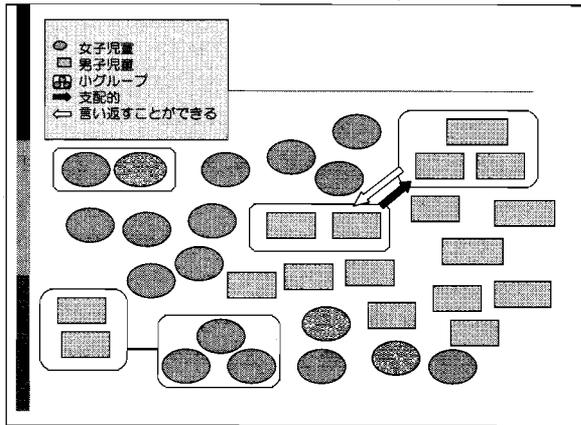
【実践計画表】

## 6. 小学校での実践の実際と児童の様子

### (1) 初期の実践とその様子

#### ① 学級子ども地図1の作成

休み時間や掃除の時間など、児童とともに活動したり対話をしたりしながら誰と誰が仲が良いか、帰宅後に一緒に遊ぶ児童どうしを把握した。また、担任教師との対話を通して児童の様子をつかみ、学級子ども地図1を描いた。



【図1 4月における学級子ども地図1】

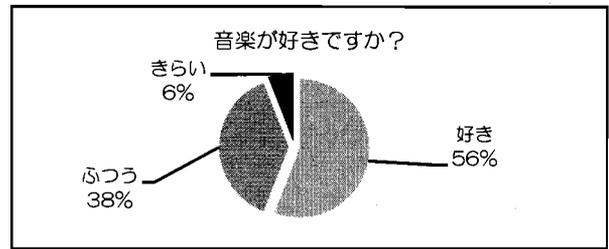
学級子ども地図とは、学級の児童のまとまりやつながりを図示し、集団間の関係を矢印で関連づけたり、その特徴を文字で書き込んだりして教師が「児童の交わり方をつかむ」目的でつくられる。左の図の楕円と長方形はそれぞれ女子児童、男子児童を表しており、本来は児童の名前を書き込んでいく。また、線で囲ったまとまりは集団を示しており、よく一緒に遊ぶ児童どうしや、いつも行動を共にする児童をひとくくりにしている。さらに、矢印の向きで支配関係を表しており、矢印が向いている方向で主張ができる、できないという相互関係をみることができる。

以上をふまえてこの図を見ると、前述のようにほとんど決まった集団はない。2・3人のまとまりはいくつかあるが、これは「座席が近い」「生活班が同じ」など、一時的な集団構成の場合が多く、信頼のおける人間関係が形成されているとは考えにくい。自分の係以外の仕事はせず、助け合ったり補い合ったりする姿が見られないなど、あたたかさに欠けた個人的かつ小集団中心思考の行動が多く見受けられた。

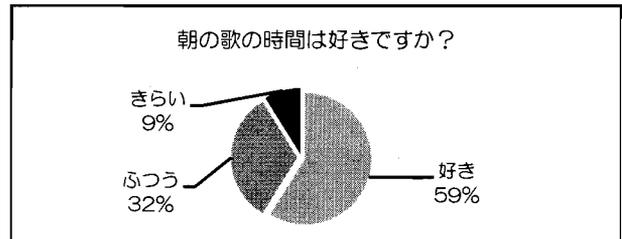
#### ② 音楽アンケート実施（4月）

3年3組の児童34人を対象にアンケートを実施した。以下歌唱についての項目を抜粋した。

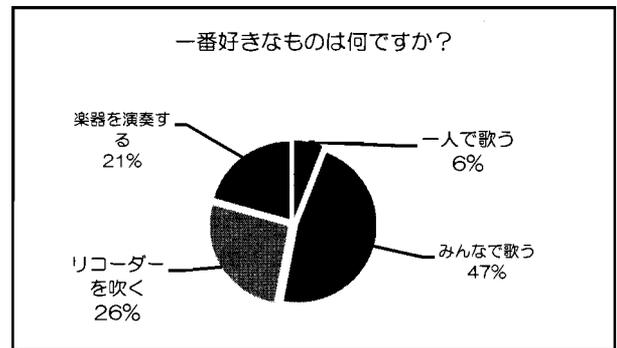
・音楽が好きですか？(選択・理由) 好き・ふつう・きらい
・朝の歌の時間は好きですか？(選択・理由) 好き・ふつう・きらい
・一番好きなものは何ですか？(選択) 一人で歌う・みんなで歌う・リコーダーを吹く・楽器を演奏する・その他



【資料1 質問:音楽が好きですか】



【資料2 質問:朝の歌の時間は好きですか】



【資料3 質問:一番好きなものは何ですか】

理由  
歌欠声が上手じゃない

理由  
手を洗ったのがあったから

【資料4 朝の歌がきらいと答えた児童の記述】

このアンケート結果と記述内容から私が読み取ったことは次の3点である。

- ・音楽の授業や歌が好きだという児童が多いが、一方では、3年生ですすでに自身の歌唱能力や声色に強い劣等感を感じてしまっている児童がいる。
- ・朝の会の歌唱活動に好意的に取り組む児童が多く、そこで歌う曲に親しみを感じている。
- ・約半数の児童がみんなで歌うことに楽しみを感じている。

あたたかい学級の実現のためには、声を出すことに抵抗や不安をもった児童を孤立させず、仲間との歌唱活動の楽しさを感じ、安心して声が出せるような雰囲気づくりをすることと、楽しく歌おうと仲間の声を認める周囲の姿勢を育てることが必要であると考えた。以上の結果をもとに後の実践を行っていった。

### ③ 歌唱時の姿勢ポスター作成

以下の2つのねらいをもって「きれいな歌声をつくるポイント」という学級掲示をつくった。

ねらい	方法
歌う姿勢について音楽の授業だけでなく、学級でも児童が毎日自ら確認できるようにする。	朝の会の歌唱活動時に、黒板に貼らせる。
教師から与えられたものとしてではなく児童に「自分たちのもの」と感じてもらえるようにする。	白黒のものを準備し、音楽係や有志児童を中心にして色を塗らせ、学級掲示にする。

この掲示物はもともと本校の教師が児童の実態に合わせて作ったものである。色画用紙で作ってある掲示物をあえて白黒で印刷し直し、色を塗らせることで児童の文化的活動を生み、創造的な活動の中で児童どうしの関わり合いをつくろうと考えた。

また、「まっすぐ前を向く」「足は肩幅にひらく」「肩に力を入れない」など9つのポイントを常時教師が口頭指導し「やらせる」のではなく、児童がすすんでお互いの姿勢を確認し、意識し合うという状況をつくることで、児童どうしのつながりを強めたいと考えた。

実際の様子からこの実践の成果を以下にまとめる。

・色を塗らせる時、音楽係に「塗れ」という命令を与えるのではなく、児童の自主的な行動を期待したことは有効であった。児童は、休み時間を使って、色鉛筆やクレヨンをもって集まり、どこをどうやって塗るか、誰が塗るか、などを話し合いながらみんなまで相談してこの掲示物をつくりあげた。

また、この時期児童が作った学級掲示はほとんどなく、学校通信や保健だより、学級通信などの掲示物に限られていた。そうした中、児童が中心になって色を塗ったこの掲示物は、学級の壁を華やかに彩った。このような活動の証が学級に残ることで自身の存在感を得ることができるのではないかと。

・私が不在の時は(音楽科を専門とする教師の不在)担任教師も積極的にこの掲示物を用いて指導してくださり、指導の一貫性が保障された。

この実践を通して、新しいことを短期的にやろうとせず、これまでの取り組みをふまえ、学校や学級の実態に合わせた形を検討することの大切さについて学ぶことができた。



【写真1 歌唱の学級掲示 左:色塗り前 右:色塗り後】

### ④ 児童の意識の変化を感じた出来事

私は、朝の会の歌唱活動を通して、児童との関わりを深めるとともに、歌う前に手拍子を合わせたり、円になって歌わせたりするなど、児童どうしが関わり合うような活動を取り入れて実践を続けた。

以下はある日の休み時間の出来事である。

A子	私を呼び、思いを訴えた2人
B子	
C子	指摘された児童
3人はとても仲が良く、一緒に遊んだり行動したりしている	

2人の女子児童(A子・B子)が先生に話があると私を呼びに来て「C子さんはオンチ!音があってないし、リズムもみんなとちがう」などと訴えてきた。私を呼びにきたA子とB子は、C子のすぐ近くで歌っており、音楽の授業時でもすぐそばで歌っている。その時にC子の声が聴こえるが、音程が合っていないことやタイミングがずれることがずっと気になっているということだった。私は当初からC子が音程やリズムが不安定で歌唱時に小さな声しか出せず、いつも不安そうな顔をしていると感じていた。朝の会の歌唱時に私が近くに行くと声が小さくなってしまふことから明らかであり、どのような言葉をなげかけようかと考えていたところだった。私は2人の女子児童の話をして聞き「それでどうしたい?」と聞いてみた。すると少し考え「うまくなってほしい」と答えた。

この出来事の背景は、A子・B子・C子は非常に仲がいいということである。つまり、仲間を侮辱するような冷たい指摘なのではなく、みんなで楽しく歌えるように「なんとかしてくれ」という児童から私への要望であるととらえた。私は、自分が歌うことだけではなく、仲間の歌を聴き、学級全体の歌声を良くしたいという児童の思いを聞き、2人に「正直に話してくれてありがとう」と感謝を伝えた。

私はこの2人が言った「うまくなってほしい」という言葉に、児童の意識の変化を感じた。アンケート結果からも分かるように、この学級では多くの児童が歌うことが好きだと答えており、そうした児童は大きな声で自信をもって歌っていて、仲間の声を聴き取って合わせようとする姿は4月当初には見ることはできなかった。しかし、この出来事から分かるように、みんなで合わせることを意識し、みんなで楽しみたいという姿勢を感じた。これは、学級の中に、目に見えないあたたかさが育ちつつあることを感じさせる出来事であった。

その後、私はC子や歌唱時の不安を訴えた児童の近くで歌ったり、歌唱前や歌唱後に対話をしたりするなどして児童の不安を少しでも解消するよう努めた。同時に、学級全体に「音を間違えてもいいから伸び伸び歌ってみよう」などと呼びかけて、仲間の声を認め、共に楽しく歌う児童の姿を育てることを心がけた。

## (2)後期の実践とその様子

### ① 朝の会の歌唱活動の工夫

私は朝の会の歌唱活動に以下の3つの活動を取り入れて児童に「今月の歌」を歌わせた。その方法と目的についてまとめる。

#### ア 好きなところで歌う

3年生は、朝の会の歌唱活動は通常では自分の座席の前で歌うことになっている。高学年は机と椅子を移動させ合唱隊形にさせているようだが、低学年や中学年では朝の限られた時間の中で移動させるのは大変である。

しかし、その場で歌うということは歌が得意ではない児童にとって不安感が大きい。この活動では、歌う場所を座席前に指定せず、教室内の好きなところで歌わせてみた。すると、児童は安心して歌える場所をそれぞれ見つけ位置を決めた。好きな友達の隣で、大好きな担任の先生の近くで、音がよく聴こえるラジカセの近くで、など思い思いの場所で楽しそうに歌った。

#### イ 全員で円になって歌う

友達と向かい合って表情を見ながら、中心に声を集めて歌うことで、学級みんなでつくりあげていることを体感させたいという願いをもって行った。音楽の授業では指導的視点を重視して合唱隊形に並ばせるが、ここでは、「みんなでひとつの円を作ってみよう」と声をかけた。注意したいことは、男女が恥ずかしがったり、避けあったりして円をつくらうとしないことや、円に加われない孤立する児童をつくらないことである。

これは教師の言動や対応など、日常の学級づくりと大きく関係していると考えている。

#### ウ ゲーム的要素を加えて歌う

毎日、朝の会で歌う時間が確保されているということはすばらしいことであると感じる。児童がアンケートに「朝に歌うとスッキリする」「気持ちがいい」などと書いたことから、歌うということが児童の豊かな心を育てることに大きく関わっていると考えられる。

しかし、毎日決まって行う活動は、変化をもたせ児童を飽きさせない工夫が必要になってくる。実際にアンケートで「なんで朝の歌はあるのか分からない」と書いた児童がいることから、私は児童に「歌わされている」と感じさせないようにしたいと考え、全員で拍手をそろえたり、一人ずつ順番に拍手をまわす拍手リレーをしたりするなど音遊びを取り入れた。

また、このような活動を通して、音楽活動への興味を引き出し、同時にリズム、強弱、速度などの音楽的要素に関心をもたせることができれば授業に生きるのではないかと考えた。

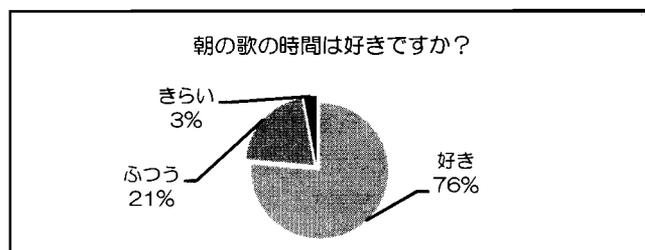
以上、私が実践した朝の会の歌唱活動の工夫であり、学級の安心感を育てる手立てのひとつである。

### ② 音楽アンケート実施(2月)

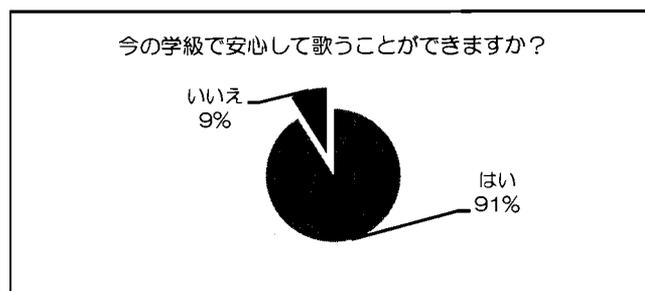
3年3組の児童34人を対象にアンケートを実施した。前回の内容に新たな問いを加えて行った。

- |   |
|---|
| ・音楽が好きですか？(選択・理由)<br>好き・ふつう・きらい                             |
| ・一番好きなものは何ですか？(選択)<br>一人で歌う・みんなで歌う・リコーダーを吹く・<br>楽器を演奏する・その他 |
| ・朝の歌の時間は好きですか？(選択・理由)<br>好き・ふつう・きらい                         |
| ・今の学級(3年3組)で、安心して歌うことができますか？(選択・理由)<br>はい・いいえ               |

「音楽が好きですか」「一番好きなものは何ですか」という2つの質問に対する回答は前回とほぼ同値であった。以下、残りの質問に対する回答結果である。



【資料5 質問:朝の歌の時間は好きですか】



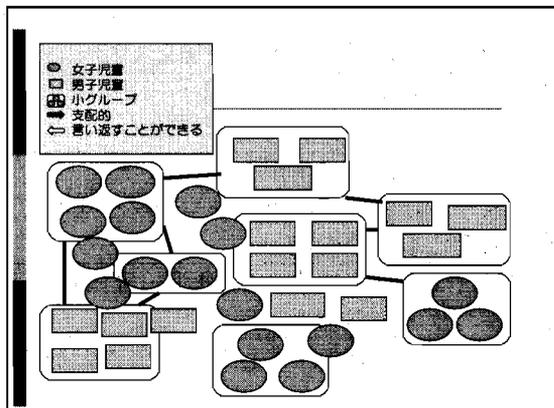
【資料6 質問:今の学級で安心して歌うことができますか】

このアンケート結果と記述内容から私が読み取ったことは次の2点である。

- |   |
|---|
| ・朝の会の歌唱活動に楽しみを感じ、「好き」を選択した児童が増加した。(59%→76%)                       |
| ・今の学級で安心して歌えると答えた児童が大多数であり、音程がとれなかったり、リズムが合わなかったりする児童に対して責める姿がない。 |

前回のアンケートで劣等感や不安感を訴えた児童は徐々にみんなで歌うことに慣れ、安心感をもち始めているようである。「安心して歌うことができますか」という問に対して、「いいえ」と答えた児童はその理由に「思いっきり歌いたいけど、思いっきり歌ってない子がいるから恥ずかしくて歌えない」「きれいな声を出すと他の子が見てくる」などと書いている。これは、歌が好きで自信をもっている児童の記述であり、この取り組みにおける新たな課題も明らかになった。

### ③ 学級子ども地図2の作成



【図2 2月における学級子ども地図2】

後期の学級子ども地図を見ると、前回との違いは一目瞭然である。まず、つながりのなかった児童どうしが様々な活動を通して関わりをもち、人間関係を築いたということである。前回の図に比べ、集団に所属しない児童が減り、小集団が増えた。また、集団と集団が友好的な関わりを強くもっている。さらに、この学級を圧倒的な力で支配する集団はなく、どの集団も対等に意見を出し合うことができる。

以上の図で注意したいのは、どの集団にも属さない児童である。これらの児童は、孤立しているのではなく、日によって、または活動によって一緒にいる集団を変えたり、集団と集団のつなぎ役として活動したりする児童を示している。当初目立っていた、物が落ちていても拾わない、自分に関係のないことはしない、というような行動は減り、あたたかい関わりが増えた。これらは、学級の日々の活動や学芸会や長なわとび大会などの学校行事を通して、学級一丸となって取り組んできた成果であり、学級集団の成長の証ではないか。

#### (3) 実践を通して見えてきたもの

##### 安心感をもって表現するために

歌唱活動を工夫したり、児童に歌唱時の姿勢ポスターを作成させたりし、児童どうしの関わりをつくったことは、本実践の目標を実現するのに有効であった。

硬い表情で歌っていた児童が笑顔で歌うようになったり、発表できなかつた児童が手をあげて自分の考えを語ったりする姿を見て、私は、児童が安心感をもって表現するためには、歌う技術や、言葉で伝える技術も必要であるが、それらを支えるのはやはり、学級の中に安心できるあたたかい人間関係が形成できていることが重要であると感じた。

本実践では、朝の会の歌唱活動で児童どうしに豊かな関わりをもたせることをめざしたが、学校生活には授業をはじめ、朝の会、給食、掃除、帰りの会、などあらゆる活動がある。あたたかい人間関係を築くには、教師が幅広い視野で児童をとらえ、様々な場面で多様な活動を提供していくことが必要である。

##### 表現することに対する自信はみんな違う

私は、本実践と並行して3年3組で音楽、社会、国語などの授業実践も行った。特に国語の音読では児童が自分を表現することに自信をもっている児童と、そうでない児童が明らかになった。

みんなの前で表現することを望み、1時間の授業中に何度も挙手し、堂々と音読する児童もいれば、指名されると不安で泣き出してしまふ児童もいる。これは歌唱活動でも同じである。「私の声を聴いて!」と言わんばかりに体を揺らして豊かな声で歌う児童もいれば、小さくなってひっそりと歌う児童もいる。

もちろん、教師としてどの児童にも自信をもって発表したり、歌ったりする姿を期待したいが、強要する形で指導するのではなく、個々の児童のありのままを受け止め、認め、伸ばしていくことが大切であると考えている。

##### 活動を通して子どもは育つ

学校行事、学級の取り組み、係活動、班活動など、あらゆる物事を通して児童は成長していく。その過程では児童が教師や大人に言われて理解していくものだけではなく、児童が自分で決めたり、自分でやってみたりして体感しながら学んでゆく。

本実践で児童が主体的に掲示物を作成したり、積極的に仲間と関わったりし、徐々に自分を表現することに自信をもち、安心して話すようになった。

##### 児童の言葉や行動を誠実に受け止める

「④児童の意識の変化を感じた出来事」で述べた出来事を通して、私は児童から大切なことを教えてもらうことができた。それは、児童の言葉や行動に表れる思いや、心を、誠実に受け止める必要があるということである。彼女らが、感じたことや、思っていることを私に言いに来たということは、それだけでも大きな決心と勇気がある。同じように思っているでも表現せずに過ごすことはできるし、あきらめることもできる。しかし、変えたいと思ひ行動したからこそ、その後の活動が動いたのではないか。

教師にとって、小学生は、随分年齢が離れていることや、日々の忙しさから、児童の言葉をゆっくり聞いて、その言葉の裏にどのような気持ちを抱えているかを落ち着いて考えることができない場面がよくある。

児童は言葉足らずで、その思いを正確に理解することが難しいことも多いが、少し立ち止まって耳を傾けることを大切にしたい。

##### 継続して児童の変化をとらえる

小学校の担任教師とは、児童の生活や人間関係に密着し、継続して児童の成長や変化を見ることが可能である。柔軟な感性で物事を吸収し、日に日に変化していく児童に対し、教師側も柔軟な視点であたたかく見守ることを大切にしたい。

## 7. フレンドリーナウの実践概要

### (1) 実習施設と時期

名古屋市子ども適応相談センター なごやフレンドリーナウ
多様なフィールドワーク実習 平成22年7月26, 27, 30, 8月2, 3(施設実習) 平成22年8月4日～8月6日(宿泊行事参加)

### (2) 施設の概要

なごやフレンドリーナウは、心理的な理由によって登校できない児童生徒が、早期に学校に復帰できるように、市内在住の小中学生を対象に教育相談・適応指導等を行う専門機関である。教育相談部と適応指導部に分かれており、以下の目的をもっている。

教育相談部	○子どもの望ましい人格形成を目指す ○子どもへの養育態度の見直し ○家族関係の調整
適応指導部	○自主性・自発性を育てる ○対人関係の改善を図る ○学力の補充を図る

通所の仕方は児童生徒それぞれで決まっている。週に1日、週に2日、毎日など、一人ひとりの状態に応じ相談して決めている。1日の通所者は30名から60名程度で日によって児童生徒の人数は大きく異なる。

### (3) 日課と活動内容

日常の活動は以下のような日課・内容で行っている。

#### [日課]

9:30～9:50	さわやかタイム
9:50～10:00	であいタイム
10:00～10:30	学びタイム
10:30～11:50	フレンドリータイム
11:50～12:00	わかちあいタイム
12:00～12:20	昼食
12:20～13:00	フレンドリータイム
13:00～13:50	学びタイム
13:50～14:30	フレンドリータイム
14:30～14:40	わかちあいタイム

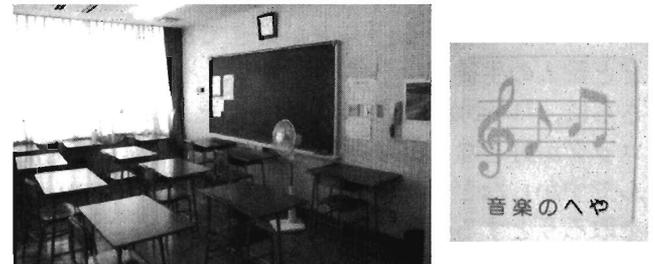
#### [内容]

日課	活動内容
さわやかタイム	通所時間。児童生徒が集まる。
であいタイム	朝の会。その日の連絡を聞いたり、担当者 と個別に話をしたりする中で、1日の活動 計画を立てる。
学びタイム	学習の時間。それぞれの子どものペースで 学習を進める。
フレンドリー タイム	主に、スポーツやゲーム・創作活動等の中 から子どもたちが選択して活動し、子ども どうしが関わりをもてるようにする。
わかちあいタイム	帰りの会。1日の振り返りをする。

### (4) 適応指導部の主な部屋と特色

部屋の名前	部屋の特色
小学部の部屋	小学生の子どもたちが教室として利用し、学習 やゲームなどの活動をする
中学部の部屋	中学生の子どもたちが教室として利用し、学習 やゲームなどの活動をする
体験部の部屋	通所まもない子どもたちが過ごす
自習の部屋	グループで学習したり一人で学習したりする
ラポールホール	オープンスペースで子どもたちが交流を図る 卓球・ビリヤード・カードゲームなど
スポーツの部屋	軽い運動や、体を使った遊びをする バスケット・バレーボール・バドミントンなど
工作の部屋	工芸や手芸、絵画などの創作活動をする
音楽の部屋	音楽を聴いたり、楽器を演奏したりする ピアノ・ギター・木琴・ドラム・打楽器など

児童生徒が拒否反応を示さないように「教室」という名称は使わず音楽室も「音楽のへや」とされている。



【写真2 左: 復帰に近い生徒が学習する部屋 右: 音楽室の表記】

### (5) 実習の方法と自己課題

施設実習と宿泊行事を合わせて約2週間実習した。施設実習では前述の日課に合わせて児童生徒と主にスポーツや音楽をして関わった。

宿泊行事では、若狭湾少年自然の家で野外炊事やカッターボート体験を通して3日間一緒に生活した。ここでは活動を通して、児童生徒の活動の幅を広げたり友好関係を広げたりし、自主的な行動を促すことをめざしている。私の自己課題は以下の通りである。

- ・私のこれまでの経験や自身の特技を活かして児童生徒と関わり、人間理解を深めること。
- ・不登校児童生徒の実際をとらえて、学校現場の指導や対応をみつめること。

### (6) 生徒の実態(適応指導部・中学部)

フレンドリーナウの生徒は、一般の中学生の登校時間に比べて少し遅く通所し、少し早めに帰宅する。これは、地域に住む中学生との接触を避けるためである。こうした配慮が必要な理由は、対人関係に大きな問題を抱えている生徒が多いという実態があるようである。施設内での生徒どうしの関わりを見ていると、男女混ざってバスケットをしたり、卓球をやったりする姿がみられるなど人間関係が大きく乱れている様子はない。

しかし、活動を通して徐々に分かったことは、話をしない生徒どうしはほとんど話をせず、一緒に活動することもないということである。これは、曜日によって通所してくる生徒が変わることや、入所時期がそれぞれ異なることなどが影響していると考えられる。

## 8. フレンドリーナウでの実践の実際と生徒の様子

### (1) 生徒との出会い

初めて生徒と出会ったのは施設の廊下であった。私が「おはよう」と声をかけると、挨拶を返してくれる生徒もいたが、まったく反応せずに通りすぎたり、表情を変えずに会釈をしたりするだけの生徒も多くいた。私は、どのように関わりをもったらよいかを考え、戸惑ってしまっていた。

すると、所員の方が「この学生さんは音楽が得意なんだよ」と紹介してくださり、近くにいた生徒と一緒に音楽の部屋で過ごすことになった。そこで私は自己紹介をしてから部屋にあったギターやピアノ、アコーディオンや木琴などを順番に演奏しながら生徒と会話を始めた。私が自分の演奏できる楽器や、音楽経験話を話しているうちに生徒の表情が徐々に和らぎ、「私はトランペットが吹ける」「洋楽が好きで毎日聴いてる」などと数人の生徒が少しずつ自分のことを話し出した。さらに、「いつからピアノを習ってたんですか」「私はロックが好きなんだけど伊吹さんはどんな音楽を聴くんですか」などと私に質問をしてコミュニケーションを取ろうとする生徒が増えた。

### (2) 音楽活動のきっかけ

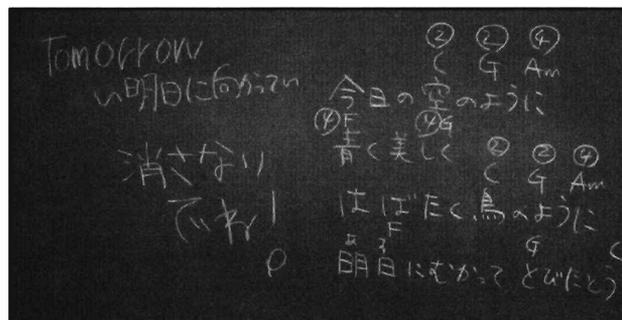
音楽の部屋での出会いを通して、生徒が私に少しずつ興味をもち始め、フレンドリータイムでは私も生徒に加わってバスケットをやったり、勝ち抜きで卓球勝負をしたりするようになった。

実習2日目、私が何気なく音楽の部屋の前を通ると、そこで生徒が一人でギターを弾いていた。私が「〇〇さん、ギター弾けるんだね」と言って部屋に入ると、恥ずかしそうにしながらも演奏を続けた。そこに別の生徒が「あ、〇〇ちゃんギター弾けたんだ」と言って入ってきて、その生徒は「私は歌うかドラムしかできない」と言いながらドラムを叩きだした。私はしばらく2人を見守りながら自分も楽器を触って過ごした。

### (3) 作詞と作曲

2日目の午後のフレンドリータイムに、私が再び音楽の部屋をのぞくと、そこには昨日と同じ2人の生徒が話をしていた。その様子を見てみると、2人が共に音楽に興味をもっており、共通の話題で話ができることを嬉しく思っているようであった。

これは後に分かったことであるが、2人は音楽についてあまり話をしたことはなく、お互いに好きな音楽を伝え合ったり、演奏を聴き合ったりしたことはなかったようである。私は2人が楽しそうに過ごしているのを見て「なんか一緒にできそうだね」と提案してみた。すると生徒は笑顔で顔を見合わせた。私は、「ひとり一文作詞」と言い「今日の空のように」と黒板に書いてみた。すると次の生徒が「青く美しく」と言い、さらに別の生徒が「はばたく鳥のように」と続けた。こうして3人で作詞する創作活動が始まった。



【写真3 実際の黒板とそこに書いた歌詞】

この写真は、その時の実際の黒板である。次の日、ひとりの生徒が「続きつくったよ!」と言ってノートに書いた歌詞を見せてくれた。この歌詞をはじめ、生徒は7枚をこえる歌詞を書き私に見せてくれた。対人関係への疑問、大人への不信感、自分の存在について、価値観の違いについて、恋愛について、など、実に様々な内容であった。私は歌詞を通して生徒の悩みや戸惑いを知り、どのような思いをもっているか、何を考えているかを知ることができた。生徒が自分の気持ちを歌詞に込めて私に表現したのであった。私はその歌詞を読み、生徒の気持ちや考えを聞きながら、ゆっくり話をした。その後、生徒の鼻歌を私がピアノで音を取り、メロディーをつかって楽譜を作成した。

#### 曲名：Tomorrow —明日に向かって—

この空のように青く美しく  
羽ばたく鳥のように明日に向かって飛び立とう  
想像したって見えない僕らの未来  
まるで暗闇の中にいるみたい  
みんなが言う「自分らしさ」って何?  
一生懸命探したって考えたって分からない  
人の真似をすることが自分らしさなのかな  
人に流されてるのが自分らしさなのかな  
「何か違う」心が叫んでる (略)

【生徒が書いた歌詞】

### (4) 練習の様子と仲間の加入

私と、歌を歌う生徒と、ギターが弾ける生徒の3人で練習をしていると、さらに2人の生徒がやってきて、部屋の隅にある椅子に座り、じっとその様子を見ていた。私はしばらく2人の様子を見ていたが、「何か楽器やってみる?」と問いかけると、照れながらも部屋にある打楽器を叩き始めた。すると「〇〇ちゃんドラムやってよ」「〇〇ちゃん木琴はどう?」などと生徒と一緒に音楽をやろうと他の生徒を誘ったのである。

はじめは一人でギターを弾いていた生徒のまわりに、徐々に仲間が集まり、私と一緒に実習をした学生を含めて6人のバンドができあがった。その後、彼女らは自分たちで曲の構成や楽器編成などを話し合いながら決め、「もっとこうしようよ」などと音楽を介して互いに積極的に関わりをもち始めたのである。

## (5) 曲の完成とその後

この曲は、わずか3日で完成し、自分たちでまとめた演奏をするまでに至った。生徒たちは、所員の方や仲間に聴いてほしいという思いが強まってきているようで、「発表会を企画しようか」などという相談も始まっていた。しかし、次の日からは所外宿泊行事であり、メンバーの半分は参加しない。継続して音楽活動をしてきたが、この日を最後に私の施設内実習は終わり、宿泊行事に参加しない生徒と会う機会はなくなった。

実習が終了してから、約1ヵ月後に私は再び施設を訪れ、生徒の様子を見に行くと、生徒らは音楽の部屋で楽しそうに演奏をしていた。私は、生徒との再会を果たし、微笑ましくその様子を見守った。

## (6) 実践を通して見えてきたもの

### 好きなことや興味のあることで自分を表現する

彼女たちはこのバンド結成をきっかけに、あまり話をしたことのない仲間と話をしたり、積極的に誘ったりする姿がみられ、人間関係の広がりを作ろうとした。このことから、私は人と人は「興味のあること」でつながりをもてるということを改めて感じた。

本実践は、ギターが弾ける生徒、ドラムができる生徒、歌が好きな生徒が集まり創作活動に発展した。生徒たちは、音楽で結びつき、歌詞を書いたり演奏したりして自己表現をした。これは、集団におけるあたたかい人間関係が生まれ、生徒一人ひとりが安心感をもった結果ではないか。これは音楽を専門とする私にとって大変嬉しく、貴重な経験であった。

### つながりを広げる活動の提案

私自身の課題として感じたことは、生徒どうしのつながりを広げる活動の提案が必要であるということだ。同じものに興味をもった人どうしが集まり、集団を形成していくことは自然であり、無理がない。

しかし、まだまだ色々な可能性を秘めている児童生徒にとって多くの人間と出会い、触れ合うことが大切なのではないか。仲のいいものどうしが集い、一緒に行動することで、児童生徒は安心感をもって生活できるが、それによって、日々の生活が特定の人間関係に留まり、価値観や考え方の世界が広がらないことは残念に思う。

本実習では短期間ながら生徒どうしの新たな関わりを生み、あたたかい空間で生徒自身が率先して共にひとつの音楽をつくったことは大変すばらしく、その場に加わることができたことは大きな喜びである。この経験をもとに、生徒らが新たな場で新しいことにチャレンジし、自己を豊かに表現できることを願っている。

私の人生においても、新たな場所ですばらしい出会いができたことを大変嬉しく思っている。所員の方々やご指導していただいた全ての方々に深く感謝したい。

## 9. おわりに

(1) あたたかい学級づくりに向けて大切にしたいこと

### ①一人ひとりをみつめ関わること

児童生徒が興味をもっていること、好きなこと、得意なこと、などはみんな違う。私はこの実践を通して、多くの児童生徒と触れ合ってきた。家庭環境や価値観は様々であり、一人ひとりの状況は全て違う。これは当然のことのようであるが、それを理解して一人ひとりに対応することは大変難しい。集団生活をし、共に学ぶということは、いくら個々が違うからといって別のことを教えるわけにはいかない。同じ教科書で、同じ空間で、共に学んでいく。

しかし、「みんな同じように」と意識して教えることが、全ての児童に同じことを要求することにつながりかねないと感じるようになった。児童生徒の発想や、表現の形などはそれぞれである。

学校現場では多くの人間が集まり、共に生活する場であるため、統一すべきことや決まりは必要である。しかし、児童生徒一人ひとりの個性をみつめ、認め、伸ばしていくことが大切であると考えている。また、教師として自身の考え方や価値観を絶対とせず、常に自身を問い直すことを忘れずにいたい。

### ②児童の字や絵がたくさんある学級にすること

実習を通して多くの先生方と出会い、ご指導をいただくことができた。その中で私が実践したいと強く思ったことは、児童生徒の字や絵がたくさんある学級にしたいということである。本実践を通して、児童が安心感をもって生活し、自身を表現するために、学級掲示の工夫が大切であると考えようになった。

先生方の学級にお邪魔し、学級を見せていただいたが、教室に入ってあたたかさを感じる学級に共通しているのは児童の文字や作品が多いことである。児童生徒が一所懸命に描いた絵や、伸び伸びと書いた書道作品があり、担任教師の心のこもった朱書きを読むと、私自身も穏やかな気持ちになり、教師になることへの期待を膨らませるのである。

教室内の掲示物に子どもたちの学びや成長の軌跡が残り、担任教師と豊かな関わりの証がある学級をめざしたい。

### ③児童どうしのつながりをもたせること

教師は児童を指導するという立場から、説明したり、指示したりすることが多い。教師として教壇に立つ以上、必要最低限の説明や指示は必要である。しかし、すべての手順や方法を教師がすべて指示してしまうのは児童の力を引き出すことにはならないと感じる。

私の授業実践を振り返ると、過剰な説明や指示が多いことに情けなくなった。指示をしなくても「一瞬待つ」ことができれば児童どうしで教え合ったり、相談し合ったりすることに気が付いたのである。

教師の指示をできるだけ分かりやすく、簡潔にし、児童の気づきや発想を大切に、児童どうしがつながりをもつ姿を期待したい。

## (2) 教師として大切にしたいこと

### ① きっかけを与える

児童生徒は一人ひとりが、きらっと輝くものを持っている。重たくて大きな図鑑を小さなランドセルに入れ毎日持ってくる昆虫が大好きな子、電車が大好きで私に駅名を自慢げに話す子、どんぐりや落ち葉を拾い集め毎日のように私にプレゼントしてくれる子、キャラクターの名前を何百種類も暗記して言い続ける子、折り紙が好きで色彩感覚豊かに学級の壁を飾る子。全ての子に共通するのは、このように自分の好きなことや興味のあることにふれている時、生き生きして、きらきらした笑顔を見せることである。

児童生徒はあらゆる事柄にそれぞれ興味をもって。その関心事が学習に直接結びつかないように思えてしまうことであっても、児童生徒の興味がどこでどのように生きるかは誰にも分からない。「キャラクターをそんなに覚えることができるなら、もっと漢字を覚えなさい」などと言いたくなる場面ももちろんあるが、子どもにとってはそのことがひとつの大切な「興味の種」であるのではないだろうか。

私は、児童生徒の興味を引き出し、知ることや学ぶことが楽しいと感じるきっかけをつくる教師になりたいと思っている。冬の間はどこでどんな花が咲くかわからぬ畑と同じように、彼らの能力がいつどのように発揮されるかは、前もって見るができない。しかし、教師が子どもたちに「楽しい」と感じてもらえるようなきっかけを与えることができるならば、きっとどこかで芽を出し、成長していくと考えている。

### ② 専門教科音楽を通して

私は音楽が好きであり、音楽を楽しむ児童生徒がたくさん育ってくれることを願っている。そのためには、自らが音楽を楽しみ、その魅力を伝えていきたいし、自分自身も磨き続けたいと思っている。

私は「音楽をすること」が目的ではなく、「音楽を通して人と人が関わること」が大切であると感じている。音楽の授業においても同じで、「元気に歌いました、よかったね」という段階をこえて「みんなで歌えたね、みんなの声でつくったね」という授業をしたいし、子どもたちと一緒に一体感を感じる音楽をしたい。

### ③ 職員どうしのあたたかい関わり

児童が学級で人間関係を形成して、徐々に安心感をもつように、職員室もまた、安心できるあたたかい関わりが必要であると感じている。大量の事務仕事に追われパソコン画面と向き合う時間が非常に長い、少し手を休めて教師どうし、今日の出来事や児童生徒の様子を語り合いたいものである。ストーブを囲んでお互いの授業のことや児童のこのみならず、自身の考えや思いなどを伝え合う、あたたかい関わりをもちたい。暗いニュースが多いが、これから始まる教師人生に夢をもち、教壇に立ちたいと思っている。

## 【付記】

安城市立安城中部小学校で約1年半、このような実践の場をいただき、あたたかくご指導いただいたことで、現場での自分を思い描き、私自身の教育観をみつめることができました。中部小学校の高山忠士校長先生、野村郁夫教頭先生、教務主任の小野内博史先生、校務主任の神谷早百巳先生、指導教諭の足立雅之先生、岩井利光先生はじめ教職員の皆様には、実習にご理解、ご協力をいただき、大変感謝しております。中部小学校の実習を通して学び得たことを生かし、新任教師として誠実に教育に取り組みたいと思っています。

また、実践を進めるにあたりご指導をいただきました愛知教育大学教職大学院の志賀廣夫准教授、佐藤洋一教授をはじめ、諸先生方に厚くお礼を申し上げます。

## 【実習校】

- (1) 学校サポーター (約1年半)  
安城市立安城中部小学校
- (2) 教師力向上実習Ⅰ及びⅡ (各4週間)  
安城市立安城中部小学校
- (3) 特別課題実習 (7日間)  
豊田市立東保見小学校
- (4) 教師力向上実習Ⅲ (各1週間)  
豊明市立双峰小学校  
刈谷市立朝日中学校  
名古屋市立大森小学校
- (5) 多様なフィールドワーク実習 (8日間)  
名古屋市子ども適応相談センター  
「なごやフレンドリーナウ」

## 【主な参考文献】

- (1) 新学習指導要領関連
  - ・小学校学習指導要領 (文部科学省 2008.3)
  - ・小学校学習指導要領解説 音楽編 (文部科学省 2008.9)
  - ・中学校学習指導要領解説 音楽編 (文部科学省 2008.9)
  - ・佐藤日呂志・坪能由紀子編著『平成20年改訂小学校教育課程講座「音楽」』(ぎょうせい 2009.3)
- (2) 音楽科関連
  - ・柴田礼子著『子どものための楽しい音遊び 伝え合い、表現する力を育む』(音楽之友社 2009.7)
  - ・竹内秀男著『段階的な合唱指導』(教育出版 2004)
- (3) その他
  - ・志賀廣夫編著『できる教師の10の技』(ルック 2009.8)
  - ・小林正幸著『事例に学ぶ 不登校の子への援助の実践』(金子書房 2005.9)
  - ・『現代教育科学1月号「表現力の育成」どこに重点を置くか』(明治図書 2011.1)